巻頭言

現代と教学・教化のかかわりをめざして

――体験事例と研究の積重ねを――

石川教張
（現代宗教研究所所長）

日蓮宗現代宗教研究所（現宗研）の原点は、「日蓮教学の現代的意義を解明し、時代に適応する信行及び布教体系の確立に寄与する」という所にある。

この課題に応えてゆくことは、第一に日蓮聖人の信仰・教説を現代という時代的・社会的状況と密着させ、きり結びながら歴史化し実践化させていくかという〈日蓮教学の社会的活現〉にとりくむことである。

第二は、現代に適応する信行と布教体系を確立するために、こんにちの時代の実態を省察し、教化活動の実践体験を通して、時代の要請と多様な現場のニーズに対応できる〈現代教化〉を提示するための研究調査にとりくむことが必要であろう。

現宗研が、研究員を主体として「現代社会の諸問題と日蓮宗教化」の研究を積重ね、過疎寺院の実態調査を実施報告し、また今年度は記念すべき第二十回中央教化研究会議において、分野別教化部会のシステムに、中央及地域教化センターの実動による現代教化の交流と協同化の推進、お題目総弘通運動の目標・計画・方策の具体化並びに信行会づくりと、その活性化による信行・弘通本位の「日蓮一門」の現代的再生などの方向を提示し、具体化への第一歩を開拓しつつあることは、いずれも「日蓮教学の社会的時代的活現」と「現代教化」を具体化していく作業にほかなら

ない。

こうした研究の積重ねにもとづいて、教説・教育・教化・教団・教師にかかわる現代の信行・布教を体系化した〈現代教化学〉といったものをまとめて提示し、教化実践に資すべきではないかと思う。

そのためには、お題目のありがたさ・大切さ・すばらしさを体験的に語り伝え、生の信仰や人生体験を告白し、現代の生老病死を具体的にえぐり出して、現代が問いかけているものを認識しつつ、仏祖が要請している教説の活現と現代教化の内実と方策を習学研究し、現代社会に応えるために日蓮教学をいかに活現していくべきか、日蓮教学にもとづく現代教化を社会的に実践し、社会に向って提言できるようにならねばならない。

現宗研の背負っている課題は、きわめて大きく、重い。そして多様である。しかし、法華経と日蓮聖人遺文にもとづいて、〈日蓮教学の社会的・時代的活現〉と〈現代教化の実践化・体系化〉をはかることなしには、日蓮宗は日蓮聖人の日蓮宗たりえない。

現在の宗門は、きびしく自浄への努力を求められている。日蓮宗の再生への道は、現代という時代社会にナマ身の人間として生きている人びとの現実を見つめ、苦悩と不安の声に耳を傾け、生きる糧と指針をさし示し導けるのか、はたして「日蓮が門弟」たりえているのか、日蓮聖人の教えを心魂に徹して受持し語りひろめていると云えるのか、という素朴ではあっても根本的な命題に、すべての者が応えられるか否か、にある。

この「現代宗教研究」に掲載されている内容は、こうしたテーマをいささかでも具体化しようという研究調査の一端をまとめたものである。研究と調査なくして発言権はない。研究内容を理解しようとしない人は、考えること、知ることを捨てていると云わねばならない。信仰と現代とのかかわりあいから自閉し、社会と人間のナマの現実を闇き、仏祖の教えに導かれて生きる道を抛りなげていることは、けっして許されるべきことではあるまい。

道があるから歩くのではなく、私たちが歩くから道ができる、という。この研究誌は、まことにささやかながら、

その道を開拓する一歩一歩の足跡である。

多くの方々が、〈日蓮教学の社会的、時代的活現〉と〈現代教化の実践と体系化への試み〉について、具体的・体験的・信仰的に明らかにされ、それらの事例や研究成果を寄せてくださることを念じてやまない。